

バイオマスタウン構想分析DB

[【リンク】宜野座村](#)

公表回	公表年月日	構想見直し		都道府県名	市町村名	人口 (人)	面積 (km ²)
		公表回	公表年月日				
46	2011.03.31			沖縄県	宜野座村	5,433	31.32
構想の要約		宜野座村は、地域のバイオマス資源を複合変換システム(バイオマスリファイナリー機能)により、エネルギーとマテリアルの同時並行生産を図る「バイオマス利活用センター」の整備を目指す。					
構想に盛り込まれた事業		熱水処理システム、BTLトリジェネシステム、微細藻類培養システムからなる複合変換システムの導入による「バイオマス利活用センター」の建設					
バイオマス利活用目標		添付別紙参照					
バイオマスタウン構想概要図		添付別紙参照					

利用するバイオマス						
廃棄物系バイオマス		未利用バイオマス			資源作物	
家畜排せつ物	○	稲わら・もみがらなど			資源作物	
農業系廃棄物(廃菌床など)		野菜等非食部				
食品廃棄物	○	間伐材・林地残材		○		
廃食用油		果樹剪定枝				
水産加工残さ		竹材				
製材工場等残材		その他(サトウキビトラッシュ)		○		
建設発生木材	○					
街路樹・公園・家庭剪定枝、刈草	○					
古紙・廃棄紙						
下水汚泥など	○					
その他()						

利用するバイオマス変換技術			
マテリアル利用のための変換技術		エネルギー利用のための変換技術	
堆肥化(土壌改良材・肥料を含む)	○	バイオガス化(メタン発酵)	
飼料化		直接燃焼	○
バイオマスプラスチック製造		ガス化	
その他(敷料)		炭化	○
		固形燃料化(チップ・ペレット・RDFなど)	
		バイオディーゼル燃料化	
		バイオエタノール化	
		その他(BTL、熱水処理)	○

バイオマスタウン実現に向けた取組の進捗状況	
記入年月日	記事
2011.03.31	2011.03.31バイオマスタウン構想公表

実現した事業	添付別紙参照
--------	--------

バイオマス利活用目標
(バイオマスタウン構想書からコピー)

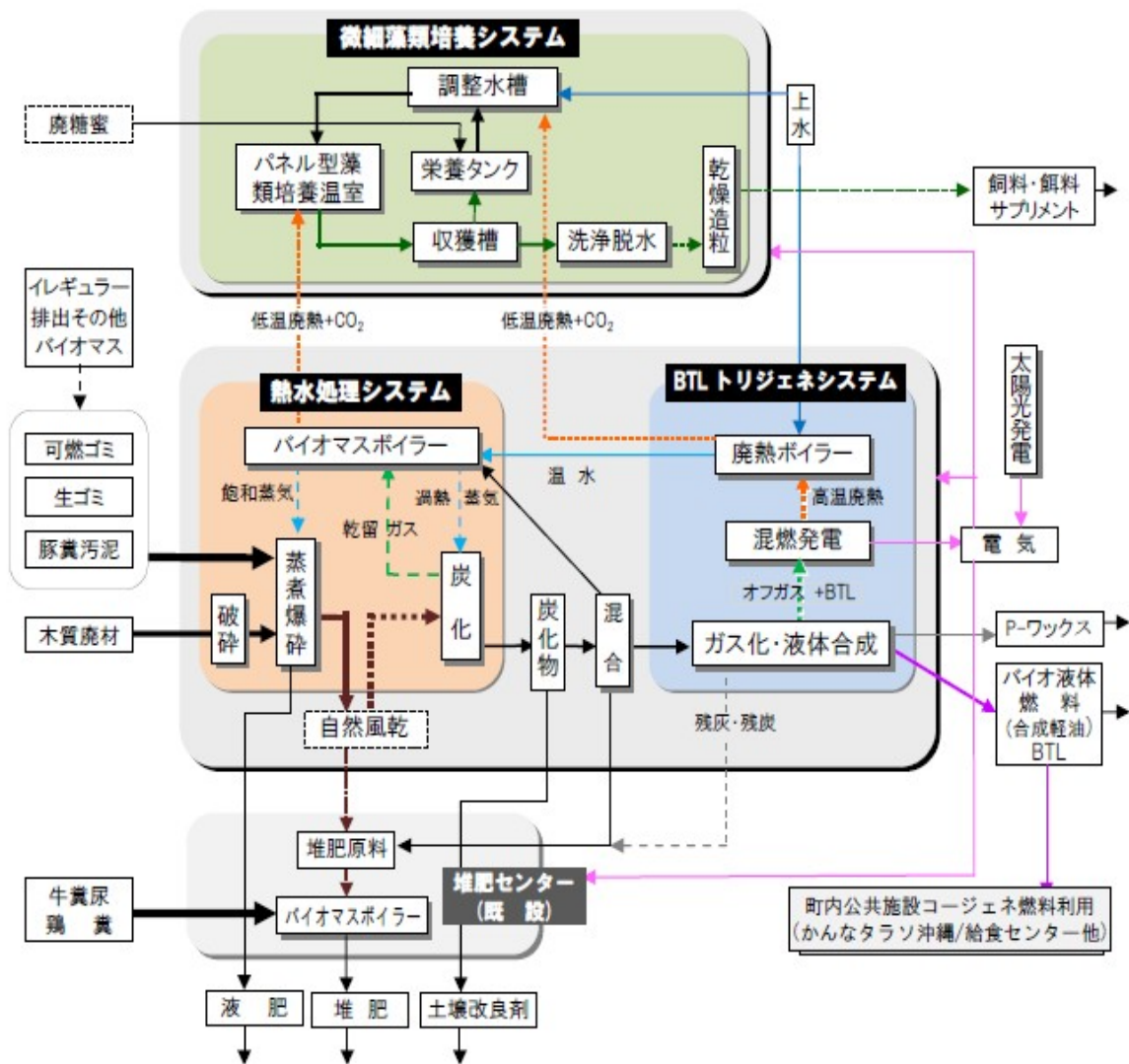
表-8. バイオマス資源の利活用目標

バイオマスの種類	賦存量 (t/年)		目標仕向け量 (t/年)		変換処理方法		利用用途		目標利用率(%)
	湿潤量	炭素換算量	湿潤量	炭素換算量	現況	計画	現況	計画	
廃棄物系バイオマス	31,803	2,893	31,771	2,880					99.6
家畜排せつ物 計	25,716	1,337	25,716	1,337					100
牛糞尿	1,548	107	1,548	107	堆肥	同左	農地還元	同左	100
豚糞尿汚泥	22,752	937	22,752	937		熱水処理 堆肥・液肥			100
鶏糞	1,416	293	1,416	293		同左			100
生ごみ 計	344	40	344	40	焼却	熱水処理 + 炭化 + BTL化	焼却	エネルギー (BTL +電気 +熱利用)	100
家庭系	241	28	241	28					100
事業系	103	12	103	12					100
可燃ゴミ	5,388	1,469	5,388	1,469					100
浄化槽汚泥	273	13	273	13	堆肥		農地還元		100
建築解体材	82	34	50	21	焼却		焼却		61.8
未利用バイオマス	5,399	1,459	4,891	1,322					90.6
林地系廃材	5,000	1,348	4,500	1,213	堆肥 焼却		農地還元		90.0
公園剪定枝風倒木	98	26	90	24	焼却				92.3
サトウキビラッシュ	301	85	301	85	堆肥	同左	農地還元	同左	100
合計	37,202	4,352	36,662	4,202					96.6

バイオスタウン構想概要図

(バイオスタウン構想書からコピー)

図-2. バイオマス活用センターの変換方法の全体構図



実現した事業(その1)

事業の名称	
事業者名	
事業所名	
住所(施設の所在地)	
利用するバイオマス	
利用する変換技術	

事業の概要	添付別紙(パンフレット等)参照
	(事業形態、事業構成メンバー、出資比率、事業開始時期、施設の概要、プラントメーカー、建設業者、イニシャルコスト、ランニングコスト、原料単価、製品単価、経営状況、事業運営の課題、成功・失敗要因など記入)